

兵特振会報

発行:兵庫県特別支援教育振興会
会長:柏 由紀夫
事務局:〒673-1421
加東市山国2006-107
兵庫県立総合教育センター
特別支援教育研修課
TEL (0795) 42-3449
FAX (0795) 42-5393

兵庫県特別支援教育振興会の果たしてきた役割と今後

兵庫県特別支援教育振興会会長 柏 由紀夫



兵庫県特別支援教育振興会は、昭和47年12月16日に元兵庫県知事の金井 元彦氏の発案で設立され、53年という年月が経過しました。初代会長となった金井 元彦氏は設立の趣旨として、「心身障害児における教育条件整備は、まだまだ十分とはいえない。早期教育、学校施設の整備、教育内容の充実、進路保障など、解決しなければならない課題が山積している。これは、行政だけに任せるものではなく、多くの県民の参画と協働によって解決しなければならない課題である。」と述べられています。

金井会長が本振興会発足の際に述べられたこの考えは、昭和54年度からの養護学校義務制を経て、平成19年「特別支援教育」の本格実施以降、障害者権利条約への批准や様々な障害者関連法令の施行を踏まえたインクルーシブ教育システムの理念等につながっています。全ての課題が解消されたわけではありませんが、障害のある子どもたちの自立と社会参加をめざした地域で支えあうネットワークづくりという点においては、本振興会が果たしてきた役割は大きいと考えます。

本振興会が実施してきた事業の多くは、県教育委員会を中心とした多様な学びの場の提供や特別支援学校のセンター的機能の充実等により、教育環境整備等が進み、現在は公的制度等の充実も図られています。今後はさらに行政が中心となり、主体的に取り組んでいくこととなります。このような状況を踏まえ、第53回総会（令和6年6月5日）において、本振興会が果たしてきた役割と功績、そして特別支援教育の現状を鑑み、今年度末をもって本振興会の解散が承認されました。

長きにわたり、本振興会の活動を支えていただいた県民の皆様や関係者の皆様には心より敬意と感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、共生社会の実現に向けて兵庫県の特別支援教育がより一層発展することを願ひまして私のあいさつとさせていただきます。

本振興会 各部会の活動紹介

啓発活動部会

令和6年度 自立・理解推進会議

令和6年度自立・理解推進会議を12月16日に豊岡市にある江原河畔劇場にて開催しました。12月の但馬地区での開催ということもあり、積雪等の心配もありましたが、当日は県内各地域から教職員、保護者、行政・福祉関係者など約50名の参加者がありました。

今回は、兵庫県立芸術文化観光専門職大学の学長であり、著名な劇作家・演出家である平田オリザ氏をお招きし、「社会参加へ向けたコミュニケーション能力の基盤づくり」をテーマとした講演会とワークショップを開催しました。

第一部の講演会ではコミュニケーションにおいて、「演じる」ということがとても重要であると語られ、コミュニケーションは他者の心情を自分の経験と結び付けて共感することから始まると述べられ、現代の若者は小さい頃からコミュニケーションの機会が少なく苦悩しており、演劇などを通して他者との共感を無意識に学ぶ必要があると話されました。

第二部のワークショップでは、演劇的な手法の初歩として「好きな食べ物」や「行ってみたい国」などお互い確認し合いながら、共通の答えを持ったひとまとまりのグループをつくっていくゲームなど、一見単純な行動ですが、無秩序なところから、声と体をつかって秩序を生み出す体験は参加者同士の意外な共通点や、趣味の一致など、自己紹介だけではなかなか見えないそれぞれの個性を知る機会となりました。

演劇を用いてコミュニケーション力を養う実践について、これからの多文化共生時代を生きる子どもたちが、多様な価値観をもつ人々と共に思考し、協力・協働しながら課題を解決していく力の基礎となるコミュニケーション能力を培うとともに非認知能力の育成・向上を図ることを目指していると述べられていました。

講演会、ワークショップ共に会場に笑い声があがるなど、終始和やかで楽しい雰囲気となりました。



(ワークショップの様子)

【県立豊岡聴覚特別支援学校 校長 足立 昭吾】

調査研究部会

「特別支援教育…兵庫」の発行

県内の特別支援学校等の紹介冊子として「令和6(2024)年度 特別支援教育…兵庫」を作成し、各学校園等に配布しました。



進路開拓部会**研究協議会**

令和6年度は2回の研究協議会を実施しました。第1回研究協議会は令和6年8月8日(木)、兵庫県立姫路聴覚特別支援学校で50名の参加を得て実施しました。始めに姫路市地域自立支援協議会 会長 河原 正明 氏より「自分らしく暮らすために～福祉制度の動向及び相談支援の現状と課題について～」という演題でご講演いただきました。相談支援の現場に長く携わってこられたご経験から、これからの福祉制度のもとで進路指導にあたる学校教員に求められることなど具体例を挙げて説明いただきました。その後、地区別の分科会を実施し、日頃の進路指導における様々な課題について、情報交換を行いました。



(第1回研究協議会 河原氏 講演)

第2回研究協議会は令和6年12月6日(金)、神戸市総合教育センターで65名の参加を得て開催されました。この会には兵庫県中小企業家同友会様からも多くのご参加をいただきました。始めに特定非営利活動法人 こむの事業所 代表 松藤 聖一 氏より「地域に根差して就労を考える～障害者の就労・定着支援の現状と課題について～」という演題でご講演いただきました。現在の事業所を運営される以前は宝塚市役所で長く福祉行政に携わっておられた経験もお持ちで、障害者の就労に対する強い思いが伝わってくる講演でした。その後、障害種別の分科会を実施し、各校が抱えている進路上の問題点について互いに理解を深めました。



(第2回研究協議会 松藤氏 講演)

2回の研究協議会を通して、障害者の就労全般に関わる幅広い情報を得るとともに今後の課題についても共有することができ、参加した特別支援学校進路指導担当教員にとって大変貴重で有意義な機会となりました。

進路開拓部会**兵庫県高等学校進路指導研究会
特別支援学校部会との合同部会(見学会)**

下記の通り見学会を実施し、施設側のご好意により様々なエリアを見学させていただきました。またその後の質疑応答でも施設に関する様々な質問に丁寧にお答えいただき、大変有意義な見学会となりました。

◆見学会について

日 時 令和6年10月17日(木) ①13時00分～ ②14時30分～

見学先 社会福祉法人 芳友 神戸医療福祉センターにここハウス
(神戸市北区しあわせの村1番9号)

参加校 県内の特別支援学校34校

◆神戸医療福祉センターにここハウスについて

にここハウスは、神戸市における初の重症心身障害児者の施設として平成13年10月に開設されました。入所事業だけでなく、短期入所ユニット「はびねす」、放課後等デイサービス「やまぼうし」、生活介護事業「スマイル」などを開設し、在宅支援事業も大きく展開されています。

◆見学会当日

西村 美緒 院長の挨拶の後、久井 一馬 相談課長から概要説明を受け、施設内を見学しました。まず、2号館の放課後等デイサービス「やまぼうし」の施設について説明を受け、2階の多目的室、リハビリ用の感覚統合室、心理療法室、1階の作業・理学療法室、スヌーズレン室などを見学しました。その後、本館に移動して診療室、臨床検査室、レントゲン室、薬局など診療エリアを見学しました。入所エリアの見学はできませんでしたが、最後に生活介護事業「スマイル」へ移動し、活動の様子をうかがいました。



(施設見学の様子)



(概要説明の様子)

【県立神戸特別支援学校 教諭 岸田 大輔】

当振興会関係団体

活動報告のコーナー

兵庫県特別支援学校知的障害教育研究協議会

本協議会は、兵庫県内の特別支援学校における知的障害教育の充実と発展をめざし、昭和41年に発足しました。現在「小学部会」「中学部会」「高等部会」「交流教育部会」「訪問教育部会」「自立活動部会」「コーディネーター部会」「養護教諭部会」の8つの部会があり、県内の知的障害教育を担う特別支援学校が輪番で当番校を務めています。それぞれの部会で毎年テーマを設定し、年に1回部会を開催して各分野に特化した研究・研修を行っており、各校の実践内容の共有とテーマに基づいた講演会で新しい学びを深めています。また年に2回行われる総会は、本協議会の意義や役割を確認し、各部会の取組を共有することができる貴重な機会となっています。

令和6年度の第2回総会（1月29日実施）には各校から35名の教員が参加し、各部会の取組の報告や次年度の予定を確認しました。その後県立いなみ野特別支援学校の教員もオンラインで加わり、「障害のある子どもの理解と指導：リスペクトとユーモアを大事にしつつ」というテーマで、神戸大学大学院 教授 赤木 和重 氏のお話をうかがいました。

「リスペクト」とは敬意という意味ですが、講演の中では「子どもを「教える対象（知識・技能の欠如体）」としてみるだけではなく、私たちと同じように「ねがいと悩み」をもった権利主体としてとらえることと定義されました。様々な事例を紹介していただくなかで、「リスペクトとユーモアがあれば、安心して楽しくて、子どもの心と身体は自ら動き出すのでは？」という問いかけをいただきました。日々指導に取り組むなかで、時々立ち止まって自分の指導を振り返ってみる時に、生かしていきたい視点だと思いました。

個々の教員がこのような研究協議会の機会に得た新しい発見や気づきは、日々の実践となって児童生徒の生き生きとした活動に生かされてきました。これまで長きにわたって助成をいただきありがとうございました。心より感謝申し上げます。



（赤木 和重 氏講演の様子）



（第2回総会の様子）

【兵庫県特別支援学校知的障害教育研究協議会 会長 ハ乙女 利恵
（県立いなみ野特別支援学校 校長）】

みんなのアート展

令和7年1月 16 日(木)～19 日(日)、兵庫県立美術館において「みんなのアート展」を開催しました。例年より短い会期でしたが、会場には県内の特別支援学校に通う幼児児童生徒 3388 名が制作した 2080 点の作品が展示されました。会期中の来場者数は 4 日間で 795 名でした。

県内の特別支援学校等の子どもたちが美術館という本格的な会場で多彩な作品を発表する機会、特別支援教育への理解啓発の機会として開催してきたこの作品展は、今年度で第 20 回を迎えました。今回、20 周年企画の一つとして、横断幕を新調しました。子どもたちが描いた個性的な顔が並ぶ横断幕は、個性的な作品が並ぶ「みんなのアート展」を象徴している感じがします。



(新調した横断幕)

最終日の 19 日には、ミュージアムホールで 17 作品の表彰式を行いました。大きなホールで、立派な賞状・楯を受け取る受賞者の皆さんの、緊張・嬉しさ・達成感・誇らしさの混じった表情がとても印象的でした。きっと今後の制作活動の励みになることと思います。

来場者の方からはアンケートを通じて次のようなお声を頂戴しました。

「どの作品も素晴らしかったです。豊かな表現力に感動しました。有難うございました。」「皆さんが頑張っているところを想像しながら楽しく見させていただきました。」「子どもが、自ら作品につけているタイトルが、その子の個性や思いが溢れていて、面白いですね。」

美術館という公共の場所で展示することで、このように作品を通じた心のふれあいが生まれます。これからも「みんなのアート展」を通じて、特別支援学校等の子どもたちの作品の魅力を、より多くの方々に広げられるよう取り組んでいきたいと思っています。



(ミュージアムホールでの表彰式の様子)



(知事賞受賞作品「ちやわんむし」)

【兵庫県特別支援学校等作品展実行委員会 大西 隆弘
(県立いなみ野特別支援学校 主幹教諭)】

兵庫県特別支援学校(知的)サッカー連盟

サッカーを通して～グラウンドで輝き グラウンドで学び グラウンドで成長する姿を～

兵庫県特別支援学校(知的)サッカー連盟は、設立から22年を経過しました。兵庫県内にある多くの知的障害特別支援学校が連携し、保護者のサポートを受け、たくさんの先生方の協力のもと活動を継続しています。また、年間5回実施する大会の運営などには、兵特振からいただいた助成金の力も借り、選手たちが輝く喜びのステージを創出しています。各大会では、それぞれの選手の技術レベルを考慮した4つのリーグを実施し、一人一人が自分の力を存分に発揮できることをめざしています。



(試合前の円陣)



(関西支援学校サッカー大会)

同時に、本連盟の活動では、社会人の参加も積極的に認め、休日の余暇活動の充実や、日々の生活への意欲を生み出すことも目的にしています。兵庫県内の知的障害を有しながらサッカーを愛する人達が、少しでも長きに渡り安心できる居場所を提供することが、この活動を継続していく一つの大きな意義であると感じています。

集団スポーツであるサッカーに触れあう中で、喜びや悔しさを仲間と共有し、社会性の向上、目標に向かい協力し努力する素晴らしさを学び、人間的に成長して欲しいと考えています。

2024年度は、当連盟にとって大きな成果がありました。県内3校のサッカー部から選抜したメンバーが合同チームを作り、高体連が主催する選手権大会に参加。団体競技においてのこの挑戦は、メディア等でも取り上げられ、大きなニュースとなりました。他にも、兵庫県選抜が岐阜県で



(三木防災公園グラウンドでの大会)



(静岡県での全国大会)

開催されるチャンピオンシップという全国大会に関西代表として出場。また、静岡県で開催される「もうひとつの高校選手権」にも関西大会を1位・2位で通過した2チームが関西代表として出場しました。これらの出来事が、参加した選手や同じ連盟に所属する仲間の自尊心の向上につながり、同時に、社会に対して障害への理解を広げる力になると信じています。今後も連盟への活動に対するご理解とご協力、そして力強い応援、宜しくお願い致します。

【兵庫県特別支援学校(知的)サッカー連盟理事長 上松 敏治
(県立西神戸高等特別支援学校 主幹教諭)】

兵庫県特別支援教育振興会のあゆみ

年表	特別支援教育の動き(国)	兵庫県特別支援教育振興会 特別支援教育の主な動き(兵庫県)
昭和47年		兵庫県特殊教育振興会発足 初代会長 金井 元彦
昭和53年		特殊教育100周年記念式典挙行 県立障害児教育センター(県立特別支援教育センター)設置
昭和54年	養護学校の就学義務化	
昭和63年		兵庫県障害児教育振興会に改称
平成4年		第二代会長 三木 真一 就任 兵庫県障害児教育振興会設立20周年記念事業
平成5年	通級による指導の制度化	
平成14年	就学制度改正(「認定就学」制度化等)	第三代会長 辻 寛 就任 医療的サポート推進事業開始
平成16年	障害者基本法の一部改正	LD、ADHD等に関する相談・支援事業開始
平成17年	発達障害者支援法制定	特別支援教育体制推進事業開始
平成18年	通級による指導の対象にLD、ADHDを追加 (併せて自閉症を明記)	
平成19年	特別支援教育の本格実施 (「特殊教育」から「特別支援教育」へ) 障害者権利条約署名	兵庫県特別支援教育振興会に改称 第四代会長 武田 政義 就任 兵庫県特別支援教育推進計画
平成23年	改正障害者基本法施行(障害者権利条約対応)	
平成24年		兵庫県特別支援教育振興会設立40周年記念事業
平成25年	就学制度改正(学校教育法施行令改正)	
平成26年	障害者権利条約批准・発効	兵庫県特別支援教育第二次推進計画
平成28年	障害者差別解消法施行 ※公的機関における合理的配慮の提供義務化	
平成28年	改正児童福祉法施行 改正発達障害者支援法施行	
平成29年		兵庫県特別支援学校技能検定開始
平成30年	高等学校における通級による指導の制度化	
平成31年		兵庫県特別支援教育第三次推進計画
令和2年		兵庫県医療的ケア実施体制ガイドラインの策定
令和3年	医療的ケア児支援法施行	兵庫県特別支援教育振興会設立50周年記念事業 県立特別支援学校における教育環境整備方針
令和4年		第5代会長 柏 由紀夫 就任
令和5年		「副籍」の全県実施
令和6年	改正障害者差別解消法施行 ※民間事業者における合理的配慮の提供義務化	兵庫県特別支援教育第四次推進計画 県立総合教育センターの新設 (県立教育研修所と県立特別支援教育センターの発展的統合) 特別な支援を必要とする幼児児童生徒に関する相談・支援事業

【編集後記】

このたび、多くの皆様にご協力をいただき、会報第88号(最終号)を発行することができました。心より感謝申し上げます。会報は今号で最後となります。周年記念誌等を参考にしながら本振興会のあゆみを作成する中で、本振興会の歴史や多岐にわたる事業内容に触れ、果たしてきた役割と功績をあらためて確認することができました。

これまでの取組が継承され、兵庫県の特別支援教育が、今後より一層発展していくことを願います。